



日企発第174号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 殿

日之影町長 津隈一



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け、国道企第114号により通知のありました標記の件について、
別紙のとおり提出します。

〔 担当課 企画開発課
担当者 企画広報係 谷川
電話 0982-87-3910
ファクシミリ 0982-87-3918 〕

中期的な計画の作成にあたっての意見・高速道路関係（宮崎県日之影町）

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

東九州から九州中央部など、救急医療や広域消防また災害時の対応など早期の道路整備は喫緊の課題であるので、全国的に見て高速道路のない地域の整備を最優先で行う。

都市と地方の格差是正のため交流人口を増やす必要があるが、それにも道路整備が重要であり、経済活動も道路整備状況が大きく影響し、企業立地などの格差原因となっている。

住民の建設促進運動を無駄にしないため、年次を示して整備の可否をはっきり示し、高速道路として整備できないのであれば、高規格道路や代替え可能な一般国道の改良整備を推進するなどの方策を具体的に提示して理解を求める施策が必要である。

2. 効率化を徹底的に進める上で特に優先度の高い政策

地域にあった工法を考えるため提案型の入札を行い、道路構造規格も全国画一的でなく地方の実情にあった整備ができるよう選択の幅を持ち、高速道路は対面通行などにより建設コストを抑えながら、「まずは高速道路を通す」という視点で整備を行う。

都市部においては、環境面から渋滞防止策として業務関係以外の自動車通行量抑制を考え、バス・電車への転換と利用促進の施策を充実させ、結果的に効率化につなげる。

3. その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

高速道路整備について道路特定財源の一般財源化が話題になっているが、全国地図を広げると高速道路の空白地域がある。それは基本計画路線になっていても整備の目処がない地域である。そのような地域ではバス・鉄道といった公共交通機関がないため移動は自家用車に頼らざるを得ず、一家族で車を3・4台保有している。数十年にわたる高速道路整備の遅れは地域間格差を広げる結果になり、現段階で整備を凍結するような意見は容認できない。高速道路整備不要論者には、地方に一定期間住んでいただき実情を理解した上で議論していただきたい。道州制が議論されているが、将来的に九州の首都まで1～2時間で行けるような高速道路整備が必要になる。

今後の高速道路整備はIC・ランプをできるだけ増やし、高速道路を降りて地域に足を留めてもらい、地域密着の特色あるSAの整備やパーキングやICの花木の植栽など高速道路管理に住民参加を企画し、地域づくりにつなげていくことも必要と考える。

また、地方道路の維持管理は予算不足で年々遅れてきているが、道路特定財源の有効活用を検討し、地方も長期・計画的に維持整備が行える予算額確保と仕組みを作っていただきたい。